

上越市役所（新潟県）

皆さん、こんにちは。私たちは、新潟県の上越市というところから参りました、上越市役所防災危機管理課・防犯交通安全係の山岸と上原と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。



上越市の概要

上越市は、平成17年1月1日に1市13町村で合併し、平成19年4月1日に特例市へ移行しました。人口は、平成24年8月末現在で20万3,897人。新潟県内では新潟市、長岡市に次ぐ人口数で、海岸部を除いた地域は全国有数の豪雪地帯となっています。

戦国時代の名将・上杉謙信の居城として知られる春日山城跡があり、2009年の大河ドラマ『天地人』の舞台となりました。他にも、日本三大夜桜で知られる高田城100万人観桜会、謙信公祭、はすまつり、レルヒ祭など数々のイベントがあります。

新潟県上越市はどんなところ？



・新潟県の南西部、日本海に面して位置し、北は柏崎市、南は妙高市、長野県飯山市、東は十日町市、西は糸魚川市に隣接している。

・H17年1月1日、1市13町村と合併。

・H19年4月1日、特例市へ移行。

・人口 203,897人（H24年8月末現在）

市章



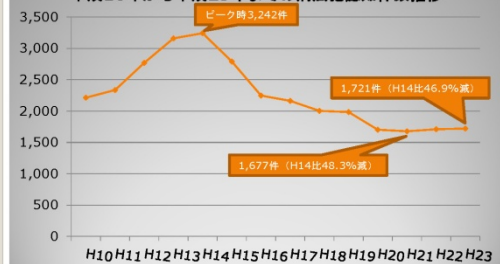
上越市の犯罪情勢

では、上越市の犯罪情勢はどのようになっているか、御説明します。

今御覧いただいているグラフは、平成10年から平成23年までの刑法犯認知件数の推移です。上越市の刑法犯認知件数は、2,000件を超えた平成10年以降増加を続け、平成14年には過去のピークである3,242件を記録しました。

その後、市民、警察との三位一体の活動によって、平成21年までの間、7年連続で減少しました。平成22年以降、微増傾向にありますが、おおむね横ばいとなっています。

平成10年から平成23年までの刑法犯認知件数推移



上越市の取組

そこで、上越市の防犯への取組は、どのように始まったのか御説明いたします。

平成15年5月に市と警察署で、「上越市“あんぜん・あんしん”街づくり懇談会」を設立し、市・警察相互の支援・連携体制の確立、“安全・安心”に対する市民意識の高揚、犯罪を防止するための社会環境づくりについての取組が始まりました。

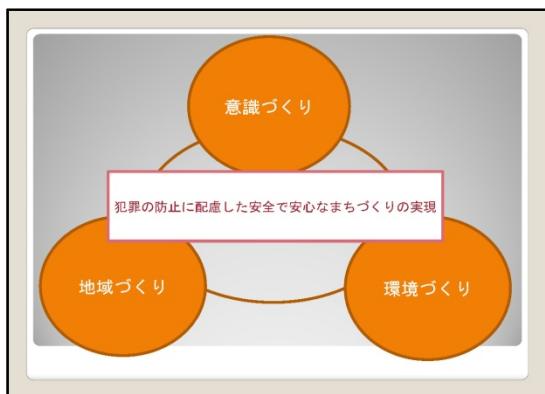
また、多くのボランティアの皆さんが、オレンジベスト、オレンジキャップを着用し、自主防犯パトロール活動がスタートしました。

上越市で多くの人に着用されているベストの右胸部分には、上杉謙信公の軍旗である「懸り乱れ龍」が描かれています。

このような活動を始めた中で、平成 18 年 10 月 1 日に「みんなで防犯安全安心まちづくり条例」が施行されました。この条例は、市及び市民一人一人がお互いの人権を尊重しながら、「地域の安全は自ら守る」との認識を持ち、それぞれの責任を果たしつつ連携し、行動することの重要性、市民はもとより、上越市を訪れる人々も含め、みんなが安全で安心してこの地で暮らし、滞在することができる、安全で安心な街づくりを推進することの必要性をうたっております。



推進計画に基づく行動（3つの基本方向）と取組



そして翌年、本条例をもとに「みんなで防犯安全安心まちづくり推進計画」を策定しました。「みんなで防犯安全安心まちづくり推進計画」に基づく行動、3つの基本方向と、取組について御紹介いたします。

この推進計画は、意識づくり、地域づくり、環境づくりの3つの基本方向に取組、犯罪の防止に配慮した安全で安心なまちづくりの実現を目指すものです。

まず、意識づくりです。意識づくりにおいては、「地域の安全は自ら守る」という自主防犯意識を高めるための

取組を進めております。①防犯意識の広報啓発、②防犯教室、講習会の開催、③防犯情報の提供が主な施策です。



具体的に御紹介をすると、まず、「上越市防犯の日、防犯週間」です。これは毎年7月12日を「上越市防犯の日」と規定し、また、その直前の土曜日から直後の日曜日までを「上越市防犯週間」として、安全安心まちづくりへの関心や、理解を深めてもらう目的で指定しています。

期間中は、全市的に防犯パトロール、児童見守り活動、通学路の安全点検、こども110番の家の確認などの活動の実践を通し、市民等との自主的な取組の気運を高めています。

写真は地区の防犯組合が主催となり、防犯啓発ブックを配布しているところや、防犯ボランティアとの集団下校、防犯ボランティアとの顔合わせの様子です。この期間中、平成 24 年度は延べ 715 団体、3 万 4,944 人から活動に御協力をいただきました。

次に安全教室です。これについては、犯罪被害の防止を目的として、市内の幼稚園、保育園、小学校で開催しているものです。市だけでなく、主任児童委員や、民生委員、児童委員、警察と協働し、「いか・の・お・す・し」の防犯標語をテーマに、紙芝居やパペット劇で指導しています。

次は、上越市安全安心アドバイザーです。平成19年度から、元警察官や防犯活動のリーダーの方をアドバイザーとして委嘱をし、現在3名により地域での防犯出前講座を実施しています。町内会や高齢者の集い等において、住宅防犯診断、子どもの安全対策、振り込め詐欺被害防止等、申請段階の要望に応じた指導や助言を行っております。



続いて、安全メールです。安全メールは防犯情報、防災情報、交通安全情報、その他の情報について、事案が発生した際に市からメールで配信しているものです。

防犯情報については、不審者情報や振り込め詐欺前兆電話に関する情報を配信しています。現在約4,600件の登録があります。

3つの基本方向の2つ目、地域づくりについて御説明します。

地域づくりにおいては、お互いに守り、支えあう地域づくりのための取組を進めております。①自主防犯活動の推進、②人材の育成、③安全の確保について配慮を必要とする方が安全で安心して暮らせる取組の推進、④青少年健全育成活動の推進が主な施策です。

この地域づくりに関する事業の1つで、上越市110番協力車制度があります。これは犯罪の抑止と防犯意識の醸成を図る目的で、車両に「110 ばん協力車」と書いたステッカーを貼付し、日常的に「ながらパトロール」を展開するものです。現在、一般市民や業者の方から協力をいただき、約3,600台が市内を走っています。

次に、青色回転灯パトロールです。市の車16台と、ボランティアの方1台、計17台の青色回転灯装着車



が市内を巡回しています。

次は、上越市安全安心リーダーです。平成 19 年度から平成 23 年度までの 5 年間、防犯活動に対するノウハウを習得する人材を育成するための養成講座を開講し、226 名のリーダーを養成しました。

現在、218 名のリーダーの皆さんから、地域の防犯活動のけん引役として、パトロール活動や、児童見守り活動、広報啓発活動等に從事していただいています。

安全安心リーダーや防犯ボランティアの皆さんと防犯活動を共有するため、明日、「みんなで防犯安全安心まちづくり in 上越 2012」を防犯協会、警察、市の主催で、日本ガーディアン・エンジェルの小田理事長様を講師にお迎えして、講演とパネルディスカッションを開講することとしています。

では、3つの基本方法の3つ目、環境づくりについてご説明します。

環境づくりにおいては、安全で安心して暮らせるための取組を進めています。①犯罪の防止に配慮した基盤（インフラ）整備、②犯罪の防止に配慮した住宅等の普及、啓発、③学校・通学路等における児童等の安全確保のための取組の推進、④相談業務の整備を主な施策としています。

環境づくりにおける主な事業として、防犯灯、道路照明等の整備があります。

犯罪の起きにくい環境づくりのため、通学路や集落外については市で、集落内については町内会で防犯灯を設置しています。平成 23 年度末の設置数は 2 万 8,763 灯です。

また、安全マップの作製支援として、小学校や町内会でのマップ作りに参加し、そのノウハウの伝達を行っています。犯罪の起きそうな所はどこか、どんなところに気をつければよいか、作製者と共に歩き考えています。



地域活動への支援等

最後に、地域活動への支援です。地域活動支援事業とは平成 22 年度から実施しているものであり、地域活動の向上を目的に、それぞれの地域における課題解決を町内会等の団体等で提案。28 の地域協議会で審議の上、助成事業を実施しています。事業の流れは、事業提案書の受付、地域協議会での審査、採択事業の決定・公表、事業実施、実施結果の公表、成果報告会の開催です。

これまで防犯について採択された活動は、安全安心マップ作製、安全安心まちづくりパトロール事業、少年の健全育成活動事業、防犯灯整備事業です。

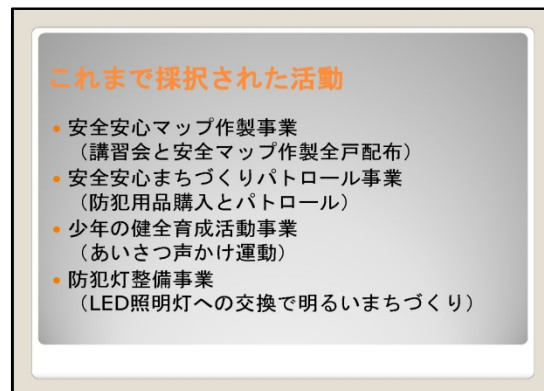
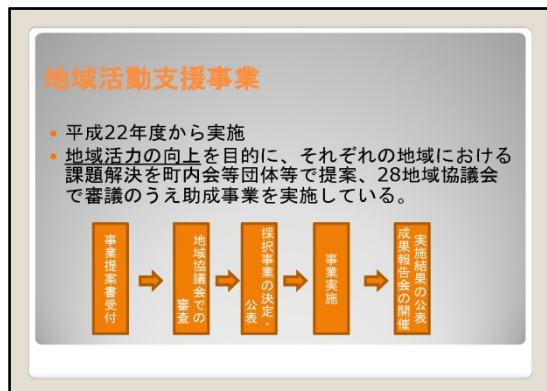
この中で、1つの町内会のパトロール事業を御紹介します。

この町内会では、安全に安心して日々の生活を過ごせるようにとの思いで、全世帯が参加するパト

ロール事業に平成 22 年度から取り組んでおります。取組に当たっては、パトロールベスト 350 着の購入が採択されました。この町内では、年間を通じてパトロール活動が行われております。

今後、地域が持つ連帯感や地域の目の活用し、日中一人暮らしの防犯対策の促進を行い、地域の特性を生かし、地域の課題解決に向けた安全安心まちづくりに取り組んでいきたいと思ひます。

当市は、平成 27 年春の北陸新幹線開業に伴い、東京や北陸地方からのアクセスが非常に便利になります。海や山などの自然、歴史、文化等豊富な当市に、是非おいでいただきたいと思ひます。御清聴ありがとうございました。



質疑応答

●質問 人口 20 万人であれば、市役所の職員が 2,000 人位いると思ひますが、その方たちは、地域で活動にかかわっていらっしゃるのでしょうか。

また、先ほど人材育成で 218 名ほど育成されたという話を伺いました。市の職員が地域でそういう意識を持って、地域活動に取り組むというの、一番直接に分かりやすい防犯、安全安心活動ではないかという気がいたします。私のところでは、青パトを回すときも、土曜、日曜は、基本的に県の職員、市の職員が乗る日というふうに一応決めております。行政は、計画を作って、システムを作って、ハードの整備をすれば、それで役割は終わっていますというような言い方を往々になされますが、それだけではなく、もう一歩地域に入り込むというのは、私は非常に必要ではないかと思ひております。御見解をいただければ幸いです。

○回答 上越市の山岸と申します。一例でござひますが、上越市では青パトを 16 台保有させていただいております。その中で、警察の方から青色回転灯にかかる実施者証を約 300 人の職員が受けております。それぞれの所属の垣根を越えて青パトを運行しましょうということで、2 年に 1 回警察署の方に来ていただいて、講習を受けております。そういうことで、できるだけ地域に出かけて、地域の実情に沿った活動をするようにということで取り組んでいるところでござひますので、御理解いただければと思ひます。町内活動に関しても、進んで動いております。